

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立鶴橋小学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、体験活動を基盤とした豊かな言語力と、論理的思考力に基づいた確かな学力、自主的・自律的な生活態度を身につけた子どもを育成することを目指して、教育活動を推進している。

児童アンケートにて「学校が楽しい」と答えた児童は昨年度 96.2%、「授業がよくわかる」と答えた児童は 97%と高い数字を保っている。理由も「学校は友達と一緒に遊んだり勉強したりすることができるから」といった回答が多数を占めている。また、「自分にはよいところがありますか」の質問についても、肯定的な回答が 94%と数値が上がっている。校舎建て替えに伴い運動場が使えない状態でも、休み時間に体育館でのドッジボールやバスケットボール、空きスペースでの竹馬や一輪車、ストラックアウトやキャッチボール、昼休みには生活科室でダンス等、子どもたちがさまざまな活動ができるよう教職員全員で工夫して環境を整えてきた。

本年度も、学級活動や学校行事あるいは校外学習等たくさんの教育活動の中で、子ども同士あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、その学びを通して、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持たせる。

全国学力・学習状況調査の平均正答率については、昨年度は大阪市平均を下回り、大阪市経年調査についても教科や学年によっては、平均を下回ることもあった。本年度は、研究主題を「自分の考えを持ち、対話的に学び合う子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざした授業づくりを通して～」とした。教材分析の方法を教員全員で共有しながら、①確かな学力・語彙力の育成②個別最適な学び③協働的な学びの3つを研究の柱として取り組む。言語活動や体験活動を通して、学びを深め、友達と交流しながら、児童が「わかった、できた」と実感を伴うような活動の充実を図る。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、昨年度は対全国比で目標値を大幅に上回った。今後も体育主任を中心に体育館や生活科室、もと鶴橋中学校運動場の効果的な活用や出前授業や夢授業等、体育活動の工夫を図る。

学習者端末の活用については、心の天気やデジタルドリル等を日常的に取り組みながら、持ち帰り学習の機会も増やし、子どもたちが主体的に取り組める活動を通して活用率の向上を図る。

教員の時間外勤務時間については、月平均時間を毎年少しづつ減らすことができている。引き続き授業時数の見直しや教科担任制、校務分掌の見直し等を図り、働き方改革をさらに進めていく。

見まもり隊の方々をはじめ、PTA や地域の方々が子どもたちの安全を見守ってくださっている。そんな鶴橋小校区の地域性を生かしつつ、様々な社会的な変化を乗り越え持続可能な社会の創り手となるような子どもたちの育成に向けて、さらに学校運営の活性化に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

〈基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〉

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度をめどに、不登校児童の数を0で維持する。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を92%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうることとして考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

〈基本的な方向2 豊かな心の育成〉

- ・令和7年度をめどに児童アンケートで「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〈基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上〉

- ・令和7年度末をめどに、小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、いずれの学年も令和3年度から2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、1ポイント増加させる。

〈基本的な方向5 健やかな体の育成〉

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.02ポイント向上させる。（※全国平均を1とした時の割合）

学びを支える教育環境の充実】

〈基本的な方向 6 教育 DX の推進〉

- ・令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。

〈基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉

- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）を満たす教員の割合を 90 % にする。
- ・ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。

学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。

〈基本的な方向 8 生涯学習の支援〉

- ・令和 7 年度の全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1 日当たりどれくらいの時間読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、肯定的に答えない児童の割合を、令和 3 年度より 10 ポイント減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

〈基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〉

- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度において、不登校児童の数を前年度より増やさない。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

〈基本的な方向2 豊かな心の育成〉

- ・令和7年度における児童アンケートで、「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を39%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。

学校園の年度目標

〈基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上〉

- ・令和 7 年度 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、いずれの学年も令和 6 年度から 0.5 ポイント減少させる。

〈基本的な方向 5 健やかな体の育成〉

- ・令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を前年度より 0.01 ポイント向上させる。 (※全国平均を 1 とした時の割合)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下) を満たす教員の割合を 80 % にする

学校園の年度目標

〈基本的な方向 6 教育 DX の推進〉

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。

〈基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉

- ・教職員が心身に余裕をもって業務に取り組めるための環境整備を図る。

【その他】

3 今年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつ

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90 % 以上にする。・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <p>〈基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現〉</p> <ul style="list-style-type: none">・令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90 % 以上にする。・令和 7 年度において、不登校児童の数を前年度より増やさない。・令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92 % 以上にする。<p>〈基本的な方向 2 豊かな心の育成〉</p><ul style="list-style-type: none">・令和 7 年度における児童アンケートで、「自分には良いところがある」と答える児童の割合を 90 % 以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童が安心して生活できるように、学級での満足度を分析、考察して個々の児童理解に努めるために、各種調査等に取り組む。・児童が落ち着いて学習に取り組んだり、安心して生活したりすることができるよう 環境整備に取り組む。・児童が抱える課題を解決するために、スクールカウンセラーの積極的活用を図る。・課題のある児童や問題行動について、職員で協力して解決に取り組む。・児童の心の状態や日々の生活を可視化し、子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然の防止・早期発見・迅速な対応を実現する。 <p>（いじめへの対応）（不登校・問題行動などへの対応）</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・学校、家庭、地域が連携して児童を育めるように、カラー版「鶴橋小のくらし」「学校安全安心ルール」「つるっ子ルール」を年度当初に配付して学校の指導内容の共通理解を図る。また、決まりが守っていない場合にはその都度保護者への案内をする。	

- ・学期に1回、いじめに関するアンケートを実施し、実施後は、学級児童の個別面談をする。
- ・毎月児童理解研修会を実施し、課題のある児童や問題行動等について共通理解を図り、迅速に対応する。
- ・年間8回生活指導部会にて不登校傾向児童の対応を検討するとともに、「いいとこみつけ」を活用し、経過を確認する。
- ・児童に「心の天気」を毎日入力させるとともに担任を中心に職員で朝の会に時間を確保して確認する。異常がある児童にはすぐに声をかけるようにする。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・「防犯」「防災・減災」「安全教育」の主旨を理解し、自分の身は自分で守るために、主体的に行動できる態度を育成するために、各種マニュアルの改善、活用の推進と研修及び実技訓練に取り組む。 (安全教育の推進) (防災・減災教育の推進)

指標

- ・学区集会を年4回実施し、通学路の安全や登校の仕方について確認する。
- ・交通安全教室またはそれに代わる指導を年1回実施する。
- ・全学年において、防災・減災にかかる避難訓練の実施に合わせて、年間に合計1単位時間（45分間）以上の防災・減災の指導をする。
- ・全学年に向けて、防災訓練を年間1回開催する。
- ・不審者侵入を想定した防犯訓練を年間1回実施する。さらに、教職員を対象とした不審者対応の研修会を1回以上実施する。
- ・各種災害を想定した引取り訓練を年間1回以上実施する。
- ・各種災害時と不審者対応時(防犯)の教職員の役割が関連するように「警備及び防災の計画」、「安全対策マニュアル」の更新を行い、各担当の役割・連携を確認する。
- ・令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうることとして考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・人権学習、道徳学習において、自尊感情の醸成と命を尊重する心の育成に取り組む。 (道徳教育の推進) (人権を尊重する教育の推進)

指標

- ・道徳教育全体計画、道徳科年間指導計画、人権教育年間指導計画をもとに道徳教育の推進と充実に努め、年度末校内調査において、「自分を大切にし、周りの人も大切にできることがある」の項目について、最も肯定的な回答率を80%以上にする。
- ・人権教育実践報告会を年に1回以上実施する。また、年度途中に計画表をもとに、進捗状況を確認する場を持つ。
- ・人権教育年間活動の実践の有無などについて確認し、年度末に係に提出し見直しをする。
- ・性に関する指導の教育実践を資料にまとめる。

取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- ・発達障がいを含む障がいへの理解を深化させ、障がいのある児童が学校や地域で学びやすい基礎的環境整備に取り組む。
- ・教職員、児童に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進に取り組む。

(インクルーシブ教育システムの充実と推進)

指標

- ・インクルーシブ巡回相談を年間 2 回以上活用し、障がいへの理解と実践力の強化を図る。
- ・特別支援教育研修全体会を学期に 1 回行う。(計画の確認、1 学期の振り返りと 2 学期の確認、1 年間の振り返り)
- ・特別支援学級児童の「自己肯定感」をはぐくむため、年 1 回以上、特別支援学級児童が中心となる活動を計画し実行する。
- ・児童に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進につながる学習を年 1 回以上（1 学期中に）実施する。

取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- ・主体性や協調性を育むため、児童会活動やたてわり班活動を通して、集団づくりに取り組む。

(異学年交流の充実)

指標

- ・児童会を中心として、たてわり班活動やつるっ子祭り、全校遠足、6 年生の卒業を祝う会を計画・実施したり、生活のきまりについて話し合ったりする。
- ・たてわり班で児童集会（講堂）や学校行事等の交流活動を年間 15 回以上実施する。
- ・あいさつ運動、募金活動など、児童が主体的に活動できることを年に 1 回以上実施する。

取組内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- ・厳謹な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けることができるよう儀式的行事の充実を図る。
- ・行事を節目として希望や意欲をもってこれから的生活に臨もうとする態度を養う。

(儀式的行事の充実)

指標

- ・入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、教職員の着任式・離任式、新入生との対面式をそれぞれ年 1 回以上実施する。
- ・儀式的行事の際に向けて、開始前には服装を整えるように指導する。

取組内容⑦【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- 将来の希望や目標を持ち、社会の一員としてよりよく生きていこうという意欲を育むために、キャリア教育にかかる活動を充実させる。

(キャリア教育の充実)

指標

- 社会見学や出前授業、夢授業など、社会や地域で活躍する方々に触れる機会を各学年、年間1回以上もつようとする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。

取組内容⑧【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- 外国人教育を通して、多文化共生・異文化理解の取組を進める。
- 国際クラブの活動の推進を図る。

(多文化共生教育の推進)

指標

- 年間1回以上、世界の国々について学習する。
- 年間を通じて行われる課内実践・民族講師との交流等を通じて、多文化共生教育にかかる授業を校内において、低・中・高学年で全学年それぞれ年1回以上実践する。
- 国際クラブ参加児童が交流会や発表会に参加することを通して意欲・関心を高め、取り組みに関するアンケート「国際クラブの活動をしてよかったです」の項目の肯定的な回答の割合を81%以上にする。

年度目標の取り組みの達成状況と分析

次年度への改善点

大阪市立鶴橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつ

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を39%以上にする。 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母体集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母体集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>〈基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、どの学年も令和6年度から0.5ポイント減少させる。 <p>〈基本的な方向5 健やかな体の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を前年度より0.01ポイント向上させる。 （※全国平均を1とした時の割合） 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑨【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じた指導（個別最適な学び）や、自分たちで学び合おうとする力（協同的な学び）を高める学習文化の形成を行い、子どもたちの学習意欲を高め、学力向上に取り組む。 <p>（「個別最適な学び・協同的な学び」の推進・全市共通テスト等の実施と分析・活用）</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童への授業アンケートの結果「授業がわかる」「めあてをもって学習している」「自分の考えを伝えることができる」（授業アンケート⑨⑩）等の最も肯定的な回答の割合を92%以上に維持する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び・協同的な学び」「主体的・対話的な学び」に関する校内研修を年1回以上実施する。 ・公開授業を一人1回以上行い、研鑽を積む。 ・総合的読解力育成カリキュラムを通して、言語力や対話力、表現力を育成する。 ・教員の授業力向上のための、ICT研修やプログラミング学習を年1回以上行う。 	
<p>取組内容⑩【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然との関わりを大切にし、体験を重視した授業づくりや理科観察実験の充実を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する出前授業や校外学習を年1回以上行う。 ・理科の授業づくりに関する研修会に年1回以上参加する。 	
<p>取組内容⑪【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じ、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の英語4技能の総合的な育成を通して、コミュニケーション能力の基礎を育むとともに、教員の英語力・指導力の向上にも取り組む。 	<p>(英語教育の強化)</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、毎週火・水曜日にモジュール学習を行う。 ・全教員が授業参観・研究協議に参加できるように外国語活動巡回訪問を実施する。 	
<p>取組内容⑫【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力・運動能力の向上に向けて、運動・スポーツに楽しく参加できる学校行事、各種取組を実施し、運動やスポーツに親しむ機会を増やす。 	<p>(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じたゲーム性やイベント性を加味した体育的行事を学期に1回以上実施する。 ・体の動きを高める運動を体育の授業等で取り入れるために、運動につながる基本的な動きの研修会を年1回以上実施する。 	
<p>取組内容⑬【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じた健康に関する指導を推進し、日常より基本的生活習慣について徹底するように取り組む。 	<p>(健康教育・食育の推進)</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の健康週間、週1回のエチケットチェックなどの実施を通して健康への意識づけを行う。 ・保健の授業や保健だより・懇談会・健康相談等の様々な機会を通じて、児童や保護者に健康への啓発活動を継続して行う。 	

<p>取組内容⑭【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じて、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるよう取り組む。 <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年において、「食に関する指導の全体計画」（年間2回の栄養指導）を完遂する。 月に1回、給食だより・給食カレンダー・食育だよりを児童・家庭に配布することや給食委員会の活動などを通して食育を推進していく。 	
年度目標の取り組みの達成状況と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつ

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下) を満たす教員の割合を 80 %にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>〈基本的な方向 6 教育 DX の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。 <p>〈基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員が心身に余裕をもって業務に取り組めるための環境整備を図る。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑯【基本的な方向 6 教育 DX の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 人 1 台端末の環境を生かし、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用することで、児童の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組む。 <p style="text-align: right;">(ICT を活用した教育の推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用開始予定日より学習者用端末やデジタル教科書を毎日使用した学級の割合を 100 %にする。 デジタル教材等を活用した朝学習を週 1 回実施する。(毎週金曜日) 教員全員が、校内外で開催される ICT を活用した授業実践にかかる研修会、実践発表会などに年間 1 回以上参加受講する。 	
<p>取組内容⑰【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の読書活動を推進するため、「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもが生き生きと読書を楽しめるよう、家庭、地域、学校が連携して取り組む。 <p style="text-align: right;">(学校図書館の活性化)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書タイム（月曜日のモジュールタイム）を設定し、個人の読書量を増やす。 一人当たりの本の貸し出し冊数を前年度(年間 28 冊)より増やす。 おはなし会や語りの会など本への興味を促すイベントを年間 1 回以上行う。 学期に 1 回、読書強調週間を設ける。 学校アンケートの「本を読む機会が増えた」の項目について肯定的に捉えている児童の割合を 67 %以上（前年度 66.4 %）にする。 	

<p>取組内容⑯【基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域を拠点とした学習機会の充実、登下校時の見守り活動、読書活動支援、地域の交流行事など、地域による学校支援の取組や、学校・地域・家庭の連携による様々な取組などの推進を図る。 ・保護者や地域住民が学校の諸活動により積極的に参加できるように取り組むことで、地域学校協働活動等を進め、「教育コミュニティづくり」の推進を図る。 <p style="text-align: right;">(地域学校協働活動の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見まもり隊よろしく集会及び見まもり隊ありがとう集会を年1回実施し、地域の方に見守られていることを再認識するとともに感謝の気持ちを抱くようにする。 ・地域との交流行事を年1回以上実施する。 	
<p>取組内容⑰【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の長時間勤務の解消を通じ、教職員が子どものたちの前で健康で生き生きと働くことができ、児童たち一人ひとりに向き合う時間を確保することができる環境の実現を目指す。 <p style="text-align: right;">(働き方改革の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を週に1回設定・実施し、定時セットの日を月に1回設定・実施する。 ・夏季・冬季休業中等の学校閉庁日を設定する。 ・教員一人当たりの持ち時間数（授業時数）を23時間程度にする。 	
<p>年度目標の取り組みの達成状況と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	